

太田川ダムだより

発行：静岡県太田川ダム建設事務所 第4号 平成15年3月

平成15年度工事の概要 をお知らせします。

本号の内容

平成15年度工事の概要

○ダム本体工事 ○付替県道工事

トピックス

○建設工事からの暴力追放 ○大まる様と八幡様の移設

企業局からのお知らせ

○安全な水を供給するために ○水道施設の地震対策



▲ダム本体付近を望むと、右岸側の掘削箇所がはっきりと見えてきました。(平成15年2月撮影)

平成15年度当初予算22億円を確保

平成15年度は、平成14年度当初予算(16億円)を大幅に上回る22億円を確保し、本体工事及び付替道路の整備を進めます。平成15年度工事の主な内容は次のとおりです。

- 本体掘削土量(76万 m^3)の約5割の掘削が完了します。
- 仮排水トンネルを完成させ、川の流れをトンネルに切り替えます。(転流)
- 5号トンネルを完成させ、付替県道を来月夜まで約94%供用します。

(次ページに続く)

水道施設の地震対策

私たちの住んでいる地域は、東海地震の危険性が叫ばれてから25年以上が経過し、発生が近づいていると考えられます。予想される東海地震はマグニチュード8程度と言われており、マグニチュード7.2の阪神・淡路大震災を上回る規模と考えられています。

地震の規模を表わすマグニチュードが1大きくなると地震のエネルギーは約32倍にもなります。

M 6.0

M 7.0

M 8.0

マグニチュードと地震エネルギーの関係
(体積が地震エネルギーを表わすようにした図です。)
出典：文部科学省「大地震のあと、余震はどうなるか」より

阪神・淡路大震災では水道施設も大きな被害を受けました。断水戸数約130万戸、断水日数は最大で90日でした。遠州広域水道では、この阪神・淡路大震災を教訓に耐震管の使用等様々な対策に取り組んでいます。

ポンプは地震計と連動し、地震発生と同時に停止します。また、主な貯水タンクには緊急遮断弁を設置し、発生と同時に流出を止める構造となっています。万一配水管が破裂してもタンクからの水を停止することにより被害を最小限におさえると同時に緊急用水を確保します。

緊急用水は、発災から3日までは飲料用として1人1日3 l 、4日から7日までは調理や洗面など最低生活に必要な量が1人1日20 l 必要とされています。

遠州広域水道の現有の貯水タンク容量は満水で約8万2千 m^3 です。発災時の貯水量はその2/3程度と考えても約60万人の1週間分が確保されることとなります。



訂正：第2号(平成14年8月)の「太田川の水質(トリハロメタン)Q&A」のA2で「平成14年7月9日・・・」とあるのは7月11日の誤りでした。訂正してお詫びします。



内容についてご質問等ございましたら……

静岡県・太田川ダム建設事務所
〒437-0215 静岡県周智郡森町森1582-1
TEL: 0538 (85) 2025 FAX: 0538 (85) 0885
ホームページアドレス
<http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki/oitagawal/index.html>

(水道・水質について)
静岡県・企業局水道室
〒420-8601 静岡県静岡市追手町9番6号
TEL: 054 (221) 2167 FAX: 054 (251) 5381

